

2022. 12. 22

ウェーブ

時評



外交と世論、政治

田中 均

たなか・ひとし 69年京大法卒。外務省経済局長、アジア大洋州局長、外務審議官を経て(株)日本総研国際戦略研究所特別顧問、(公財)日本国際交流センターシニア・フェロー。

外交を進めていくにあたって最大の課題であり続けるのは国内世論であり、政治との関係だ。外交には相手があり、突っ張るだけでは問題解決をすることはなく、双方にとって「ウィン・ウィン」とみえる結果を作らざるを得まい。

960年の日米安保条約改定、65年の日韓基本条約、そして72年の日中国交正常化。いずれも時の首相が国内の強い反対を押し切って実現した外交であり、これらが長期的国益にかなうことはその後の歴史が証明する。

悔しくなかったですか」というものであった。確かに私たちが小泉訪朝で描いたのは朝鮮半島の平和達成という大きな絵だった。日本は大陸進出のため朝鮮半島を拠点にし、多くの犠牲を生んできた。

一部が死亡したと伝えられたことへの鋭い批判がわき起こり、日朝の対話は順調には進まなかった。核・ミサイル問題解決のため米国を巻き込むことには成功したが、米国が北朝鮮に派遣した代表団は不首尾に終わった。核問題の進展は翌2003年8月の6者(日米中ロ南北朝鮮)会合の開催を待たざるを得なかった。ようやく05年9月に、北朝鮮問題の包括的解決に向けて6者の合意がなったが、これも、北朝鮮の核放棄の具体的な検証方法の合意ができず、一方では米国によるマカオのBDA(パ

平壤宣言で描いた道のりが実現しなかったのは日本国内の激しい反北朝鮮感情があったことは事実であろうが、それが全てではない。むしろ核問題解決のための道筋が描けなかったことが最大の原因だったのだと思う。核問題解決の道筋なくして拉致問題も国交正常化問題も前には進まない。核問題が動き出そうとした05年9月がおそらく最大のチャンスであったのだらうが、残念なことに、これは極めて短期間に終わった。

という事は、交渉結果について一部には相手への譲歩を含むわけであり、あるいは短期的には譲歩であつても長期的には大きな利益となる事を国民に説明できなければならぬ。国民との関係で究極的に説明責任を持つのは国民に選ばれた政治家であり、官僚ではない。

今年是小泉訪朝・平壤宣言20周年である。直接の交渉当事者であった私は数多くのテレビ・新聞からインタビューを受けた。その際、多くの記者の質問は「小泉訪朝によつて5人の拉致被害者を帰還させることに成功したが、平壤宣言は実現されなかった。それは一部有力政治家を含む国内の厳しい対北朝鮮批判によるものと思うが、

日本主導で朝鮮半島の平和創出に突破口を開きたい。「拉致問題も日朝国交正常化を含む将来の展望を示さなければ解決しない。国交正常化を語るためには米国の巻き込んで核・ミサイル問題解決について道筋をつける必要がある。拉致・核・ミサイルの包括的解決こそが正しい道だ」

小泉訪朝後は容易な道の前ではなかった。国内では拉致被害者の制裁で北朝鮮口座が凍結された結果、北朝鮮側の激しい対米批判を生み、合意はとん挫した。その後北朝鮮は最初の核実験に踏み切る。

悔しい。しかし客観的に見れば北朝鮮問題は日本独自では打開できない局面にきている。今後、再び国際環境が変化し6者協議に戻るような展望が開かれれば、平壤宣言も生き返るのかもしれない。

1 ニシアタイプで実現してきた。

悔しくなかったですか」というものであった。確かに私たちが小泉訪朝で描いたのは朝鮮半島の平和達成という大きな絵だった。日本は大陸進出のため朝鮮半島を拠点にし、多くの犠牲を生んできた。

一部が死亡したと伝えられたことへの鋭い批判がわき起こり、日朝の対話は順調には進まなかった。核・ミサイル問題解決のため米国を巻き込むことには成功したが、米国が北朝鮮に派遣した代表団は不首尾に終わった。核問題の進展は翌2003年8月の6者(日米中ロ南北朝鮮)会合の開催を待たざるを得なかった。ようやく05年9月に、北朝鮮問題の包括的解決に向けて6者の合意がなったが、これも、北朝鮮の核放棄の具体的な検証方法の合意ができず、一方では米国によるマカオのBDA(パ

平壤宣言で描いた道のりが実現しなかったのは日本国内の激しい反北朝鮮感情があったことは事実であろうが、それが全てではない。むしろ核問題解決のための道筋が描けなかったことが最大の原因だったのだと思う。核問題解決の道筋なくして拉致問題も国交正常化問題も前には進まない。核問題が動き出そうとした05年9月がおそらく最大のチャンスであったのだらうが、残念なことに、これは極めて短期間に終わった。

悔しい。しかし客観的に見れば北朝鮮問題は日本独自では打開できない局面にきている。今後、再び国際環境が変化し6者協議に戻るような展望が開かれれば、平壤宣言も生き返るのかもしれない。